

国立大学法人広島大学東広島団地温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

東広島団地

(2) 事業所の所在地

広島県東広島市鏡山一丁目3番2号

(3) 業種

大学 8161

(4) 事業所位置図
別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成21年度を基準年度とし、平成31/令和元年度から令和10年度までの10年間とする。

3 計画の基本的な方向

1. 基本的な考え方

地球環境を保全し、持続可能な社会を構築することは21世紀の人類最大の課題であるとの認識に立ち、単に環境負荷削減に取り組むだけでなく、教育・研究・社会貢献を中心とした大学の全ての活動・行動を通じて、地域社会・国際社会との連携の中で環境負荷削減に取り組み環境保全に貢献するよう努める。

2. 方針

- 大学内外における環境教育を通じて、環境に対する高い問題意識と知識をもつ人材を育成する。
- 地域・地球環境の保全、持続可能な社会の構築に向けた先進的・実践的な研究を推進する。
- 大学が蓄積し、創造してきた知的財産を広く社会に還元し、地域社会・国際社会における環境保全活動に貢献する。
- 全ての活動において、環境関連法令を遵守し、環境負荷の削減と自然環境の保全に努める。
- 環境報告書を通じて、広島大学の環境に関する取組を積極的に公開し、社会との共生を図る。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成21年度	平成31/令和元年度
二酸化炭素	32,319	25,307

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	令和 年度	令和 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	令和 年度	令和 年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF6 NF3)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (令和 年度)		削減目標		目標年度 (令和 年度)
	排出量 (a)		削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO2					0
非エネルギー起源CO2					0
メタン					0
一酸化二窒素					0
その他 温室効果ガス					0
温室効果ガス 実排出量総計					0
温室効果ガス みなし排出量			-		0
目標設定の考え方					

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

延べ床面積 m²

単位：排出量(t-CO₂)，原単位量 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成21年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和10年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO2	32,319	333,266	0.10	40.0	22,887	360,391	0.06
非エネルギー起源CO2				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	-	-		0.0	-	-	
目標設定の考え方	CO2排出量原単位を前年度比1%削減とする。 電気によるCO2排出量は中国電力(株)の実排出係数を使用する。						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	燃料使用のCO2排出量原単位を前年度比1%削減	重油・LPG・都市ガス消費量の削減のため冷暖房負荷の軽減対策の徹底。
2	電気使用量の削減	電気使用のCO2排出量原単位を前年度比1%削減	高効率変圧器及びLED照明器具の導入 LED外灯の導入 空調機の省エネ型への更新 太陽光発電設備の導入推進 冷暖房時の室内温度設定の適正管理 冷暖房器具の無人運転の禁止周知 休憩時間帯の消灯・運転停止の徹底 一斉休暇促進、定時退庁の励行 休日・夜間のエネルギー使用の自粛 省エネ型実験装置の導入促進
3			
4			

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

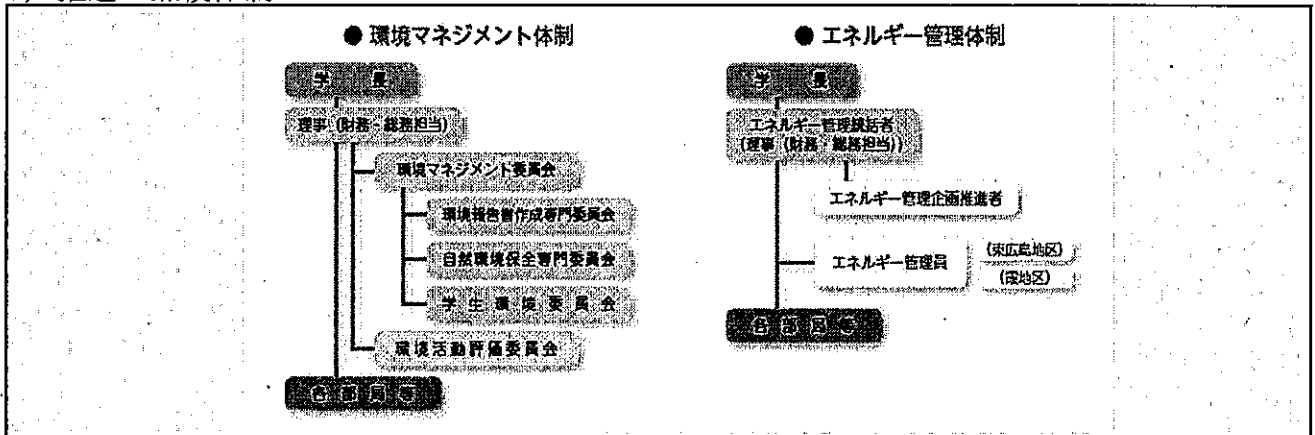
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	上水使用量の削減及び廃棄物排出量の削減	水道使用量の削減 可燃ゴミの削減 コピー用紙使用量の削減 いずれも前年度比1%削減	節水器具導入・注意喚起 再資源可能な古紙等の資源化を徹底し、可燃ごみの削減 会議資料等の削減 両面コピー推進と裏面活用
2	環境教育及び環境研究の促進		環境関連講義の実施による意識高揚 環境関連研究の促進
3	自然環境の保全活用		植生管理、実験生態園等の散策路整備 山地の利用検討、ビオトープ等の維持管理

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

- ・学内エネルギー管理規則に基づき、各部署等ごとにエネルギー管理責任者及びエネルギー管理担当者を中心として、部署等の実情に即した実務面での省エネ推進活動を実施する。
- ・環境部門においては、学内環境マネジメント規則に基づき、全学としての取り組みを継続する。

(3) 計画書等の公表

- ・環境目標及び削減計画等については、学内関連会議等による周知と学内電子掲示板による公表。
- ・環境全般に関する計画については、内容は毎年作成の環境報告書により公表。
- ・エネルギー消費状況等については、半期毎に関連会議等での報告と学内電子掲示板による公表。

